

第2回三次市総合計画審議会 議事録

日 時	平成25年8月23日(金) 15時～17時
場 所	三次市文化会館2階大会議室
議 事	(1) 三次市総合計画骨子(案)について (2) その他
委 員 等	<p><出席委員></p> <p>【会長】 伊藤 敏安/広島大学 教授 安藤 由子/国際ソロプチミスト三次 会員 伊藤 優子/三次市文化連盟 理事 岩崎 積/青少年育成三次市民会議 会長 小山 理恵/三次市保育所保護者会連合会 監査 田原 和彦/三次市広域商工会 会長 田村 眞司/三次市住民自治組織連合会 会長 富野井利弘/三次農業協同組合 代表理事専務 信國 秀昭/一般社団法人三次市観光協会 会長 邊見 俊宗/三次地方森林組合 代表理事専務 箕田 英紀/三次市公衆衛生推進協議会 会長 猪森 正一/国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 所長 清本 久子/広島県北部厚生環境事務所・保健所保健課 課長 脇本 修自/日本赤十字広島看護大学 事務局長 岡崎 薫/市民まちづくり塾1 副座長 馬場 博通/市民まちづくり塾2 座長 深水 顕真/市民まちづくり塾3 座長 升井 紘/市民まちづくり塾4 座長 田村 謙宗/市民まちづくり塾5 副座長 正光 祐希/市民まちづくり塾 委員 的場 由樹/市民まちづくり塾 委員</p> <p><欠席委員></p> <p>小林真理子/三次市PTA連合会 会計 田村 武敏/三次市社会福祉協議会 会長 細川喜一郎/三次商工会議所 副会頭 前田 茂/財団法人三次市教育振興会 理事長 村山 朋子/三次市女性連合会 理事 安信 祐治/三次地区医師会 理事 山岡 克巳/財団法人国際交流協会 副会長 西本 寮子/県立広島大学 教授 月橋 寿文/市民まちづくり塾6 座長</p> <p><事務局></p> <p>藤井 啓介/三次市地域振興部 部長 長田 瑞昭/三次市地域振興部企画調整課 課長 宮脇 有子/三次市地域振興部企画調整課企画調整係 係長 杉谷 幸浩/三次市地域振興部企画調整課企画調整係 林 美絵/ 同 上</p>

1 開会

(事務局)

開会に先立ちまして、委員の皆様一言お願いさせていただきます。

本日、本審議会を傍聴したいとのご依頼がございますので、お諮りしたいと思います。本審議会は会議の公開につきましては、傍聴されることについて御異議はありませんでしょうか。

(各委員「異議なし」)

異議なしとのことですので、本審議会をご出席される方につきましては、ご了解を頂いたものとみなします。

また、本審議会のご意見を記録するため、音声の録音をさせていただきますこと、また、本審議会のご意見をホームページ等で公開をすることについてご了解を頂きたいと思っております。

それでは、第2回の三次総合計画審議会を開催致します。

本日は大変ご多忙なところ、ご出席を頂きまして、誠にありがとうございます。

それでは、開会にあたりまして、伊藤会長からご挨拶をお願い致します。

2 会長あいさつ

(伊藤会長)

広島大学の伊藤でございます。

今日は第2回目ということで、計画の骨子(案)についての議論をしていきたいと思っております。これはいわば、家を建てる時の基礎工事に当たる部分で、非常に重要な部分です。

これまで、事務局で議論された原案等についてやりとりを致しました。それを踏まえて、事前に皆様方に資料を送付する予定だったのですが、そこに至らずに、当日配布ということにさせて頂きました。

事務局が悩まれた案について、皆様の意見をお伺いしながら、形にしていければと思っておりますので、説明のあと、活発なご意見をお聞かせ頂ければと思います。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。議事に入る前に、本日の配付資料のご確認をお願いします。

本日お手元にお配りしております資料は、会議次第、三次市総合計画骨子(案)の説明資料の3点でございます。本日は骨子(案)を中心に審議をお願い致しますと存じます。

ただいまの出席議員は21人でございます。定足数に達しておりますので、議事に入らせて頂きます。ここからは進行を伊藤会長にお願い致します。

3 議事

(1) 三次市総合計画骨子(案)について

(伊藤会長)

それでは、次第に沿って進めたいと思っておりますが、その前に、審議会運営規則第10条第3項の規定によりまして、本日の会議の署名委員を決めさせて頂きたいと思っております。今回は岩崎委員、岡崎委員をお願いしたいと思います。

それでは、議題の1三次市総合計画骨子(案)について、事務局から資料説明をお願いします。

<資料説明(略)>

(伊藤会長)

今回は重要な話ですが、だからこそ、少し分かりにくいところがあったかと思います。

この総合計画は、一人一人の幸せをいかに具体化していくか、というのが大きな目標としてあります。

具体化していくために、例えば、教育とか福祉とか子育て支援といった色々な施策、あるいは個別の施策が並んでいるわけです。そういった個別の施策、事業をいかに体系化し、整理していくかというのが今日の一番重要な部分、大目標を整理していくための基本的な理念、哲学に当たる部分となるわけです。

これを出来る限り具体化するために、市民アンケートの結果、まちづくり塾での議論の結果、さらに第1回審議会の結果を踏まえ、哲学に当たる部分を考えて、というのが、今日の資料というようにお考え頂ければと思います。

今日の資料の中で重要なこと、ご意見をお伺いしたいのは、1つ目は、まちづくりの主要な課題の捉え方が適切であるか、アンケート、まちづくり塾、第1回審議会等で議論されたことが反映されているか、いかに整理されているか、ということ。それから2つ目は、「計画を実行する上で大切にしたいこと」ということで「参加」と「行動」とありますが、このキーワードについて、総合計画の理念がきちんと集約されているかどうか、また、まちづくりの基本的な視点として「誇り」「共生」「拠点性」とあるが、これが適切かどうか。さらにこれが、「ひとづくり」「しくみづくり」「くらしづくり」「仕事づくり」「環境づくり」といった政策とどう対応しているか、ということ。

キーワードと政策の柱がどう対応しているか分かりやすく工夫できないか、といったことも含め、ご提案、ご意見頂けたらと思います。

ご意見、ご提案を頂く前に、今の説明についての疑問をお聞かせ頂ければと思います。整理の仕方がピンとこなかったという質問でも構いません。

(委員13)

資料「総合計画とは」というところで、「基本構想」と「基本計画」を定めるとあります。

今日の骨子というのは、この基本構想に当たるイメージなのでしょうか。

(事務局)

今回の骨子については、基本構想に当たるということですが。

基本計画というのは、今後お示しすることになりますが、それぞれの分野について具体的な施策を書いたものでございます。

(伊藤会長)

それでは、ご意見、ご提案を具体的にお伺いしたいと思います。

重要なのは、先ほど申し上げましたように、課題の捉え方が適切かどうか。推進のためのキーワードが適切かどうか、まちづくりの基本的視点の3つの用語が適切かどうか。それから、政策の柱「ひと」「しくみ」「くらし」「仕事」「環境」が適切かどうか。更にそれぞれ相互の関連について、ご意見等がお伺いできればと思います。

(委員1)

市の施策として空き家バンクがありますが、その空き家を運用していく担い手がない。若者とは限らないですが、担い手となる人が三次を離れ、帰ってこない。その若者をいかに三次に連れて帰るか、また、三次に帰りたいという気持ちになるような子育てをしていく必要があるのか

な、と思います。

(伊藤会長)

個別の施策、事業に関するご意見も重要ですが、今日出てきた課題であるとか、基本的なキーワードについてのご意見、ご提案等を頂ければと思います。

(委員2)

私は高齢者です。今、どこへ行っても「少子高齢化」と言われます。しかし、高齢化していくのは当たり前で、高齢者が邪魔、足手まといになるような感じで、行政をしていかないといけない時代なのかなと感じます。ぜひ、高齢者も有効活用していければと思います。

前回の会議でも言いましたが、私は、自分が住んでいる地域に誇りを持って生きられなくなっている実態があると思います。なぜ、保育所や小学校をなくしてしまったのか。私は、子育てとか、老人、成人に対しても教育が一番だと思っています。

資料には、お互いが認め合って、支え合って、温かみがあって安心感のある地域づくり、まちづくりとありますが、どこのまちをそのようにしていこうと思っているのか。それを行動していくのは、それぞれの地域に住んでいる人だと思うのです。

住民が本当に誇りを持って地域に生きて、子ども達も地域で育てられる。小学校は地域からなくなってしまうのですが、子どもたちが、自分達の地域に誇りを持って生きていけるよう行動を起こして、どんな地域に住んでいても、誇り深く生きられるような市の政治をお願いしたいと思います。

(委員3)

将来人口について、本当にこれで良いのか、もっと減るのではないかと、という疑念があります。

最近でみると、例えば学校の統廃合の問題があります。20年前にどのような人口見通しであったかという、今ほどの減り方はしてなかったはず。だから学校も建てて、ハコモノもやってきた。しかし実際は減っている。だから、数字の見方が甘いのではないかと、思うのです。

また、資金の問題にしましても、30億減ると言われますが、何らかの措置もあるでしょう。しかし、働き手の人口そのものが減るわけだから、市の中で回るお金自体も少なくなっていくのではないかと、そのところを詰めてもらう必要がある。

生産年齢人口が増えていかないことには、子どもの数は増えていかない。だから、人口の見通しが納得できない部分があるわけです。

(伊藤会長)

これは国立社会保障・人口問題研究所というところが推計しているのですが、過去5年、10年くらいの人口移動、社会増減の流れを踏まえています。今の状態が続くようになります、という数字であろうと思います。

けれども、おっしゃったように、人口の捉え方次第で計画に随分影響しますので、注意したいと思います。

(委員4)

「まちづくりの主要な課題」に、障害児という言葉が入っていないのが気になります。障害者とは対応するスペースなどが違って来るので、障害児から若年の障害者につながるころの項目が欲しいと思いました。

それから、複式小学校を活かせるような三次市になればと思います。複式小学校を無くしてい

こうという流れになっていると思いますが、複式の素晴らしさを訴えている大学の先生もおられます。子どもは少ないけれど、濃厚で丁寧な授業を受けられる、先生と地域とつながれるというところを大事にできればと思います。

それから、活用されていない公共施設があると思います。地域のコミュニティの場として活用されている施設もあれば、活用方法が見つからなくて困っている地域もあると思います。そのような施設については、行き場所を失くした子ども達の受け入れ先として、自然を活かしたフリースクールという形で活用していければ、と思います。

(委員5)

三次市の宝物といえば、広大な耕作地が一番かなと思います。これも自然の一部で、環境にも良いということで、この宝を何とか光らせる。農業の衰退を食い止めて、6次産業化を進める。そうすると、雇用も創出でき、農業就労者の利益も改善できるかと思います。

また、広大な土地にメガソーラーでも置いたらどうか。これはどの地域でもすぐできるかと思うのですが、メガソーラーを置いたからといって雇用は生みません。置いて利潤がでるかどうか。

雇用を伴って、そこへ人が集まって、新たなまちができるという、田舎は田舎なりの、定住につながる施策に力を入れないと、この広大な宝物の土地が死んでしまう気がしています。是非とも農業にも目を向けていった方がいいのではないかと考えております。

(委員6)

合併して10年ですが、合併当時に思い描いた10年後と、大きな乖離が生じてきている。高齢化率が50%近くになる地域もあるし、十日市、八次、酒屋などは高齢化率も比較的低いと言われている。そういう所がこれから10年後にどのようなことになるかということ、これは絶対に見逃してはいけない課題だと思います。

私も住民自治組織としてやっていますが、住民の中には、行政にやってもらえろという思い、気持ちがまだあると思います。経済が縮小してきている中で、三次市の計画をどのようにするかというのは大きな課題であると思うし、住民の意識改革をどのようにやっていくかということも必要じゃないかと思います。自分でできること、行政でやってもらうことのメリハリというのが重要なのではないかなと。

私どもは10年先には高齢者になるわけですが、その次に、どのようにつなげるかということはこの計画の中で考えていないと、三次市として生き残れないと思います。

(伊藤会長)

今おっしゃったように、住民自身、受け身から行動しなくてはならない、そういう意識の改革が重要だということなのですが、「計画を実行する上で大切にしたいこと」で「参加」「行動」というキーワードがあります。委員6がおっしゃった思いが、こういった言葉に表れているかどうかという点でどうでしょうか。

(委員6)

私は、住民自治組織として生き残るためにNPO法人を設立しようとしたのですが、役員の中で、そういうことは住民自治組織がすべきではないという意見が強く、別にNPO法人を立ち上げました。

そこでは、自分達で出来るだけのことをして、そこへ若者が入って来られるような形を作ろうということで、ご協力頂きながら、ある程度の売り上げをあげられるようになりました。

自分達でできることは自分達でやっていくという思いにしないと、住民自治組織も生き残れな

いだろうと思っています。

(伊藤会長)

今のような思いが、計画に反映できるといいと思います。

(委員7)

今、骨子をみたので、全てを消化しきれていません。市としてやるべきことが、骨子に入っているんだろうな、という、漠然とした言い方しかできない。

そもそも「市民のしあわせ」とは、具体的にどういうイメージなのか。これは市民にもアピールしていくものになると思いますが、「市民のしあわせ」をこのように実現します、ということが分からない。何をもちてそれを感じるができるのか。具体的な計画に入るかもしれないですが、数値的な目標が必要ではないか。

私も計画などをまとめる時、現状分析、課題はしっかりとやるのですが、具体的な数値目標を外して、抽象的なところでまとめてしまう。結果的にその計画が達成できたのか評価できない。

一市民として、今が幸せか不幸せか、具体的に何が変わるのが、総合計画のいう「しあわせ」づくりになるのが、市民に見える形であればいいのではないかと思います。

(伊藤会長)

目標そのものを具体化するということと、それから数値目標、これは確かに大事なのですが、今議論しているのは基本構想に当たる部分、理念に当たる部分ですので、今後基本計画について議論する時に、数値目標等は皆さんのご意見をお伺いしていこうと思います。

(委員8)

本日は、素晴らしい資料を作成されており、敬意を表するところでございます。

さて、まちづくり、総合計画のキーワードはどうか、という質問ですが、これだけ幅広いと難しいところです。私は、観光という部分に対しては興味もありますし、多少理解もしておりますから、意見を求められればそれなりの持論もあります。しかし、これだけ幅広いと、まとめあげていくのが大変だな、と実感しております。

市長はよく「住んでみたい」そして「住んでよかった」という地域づくりをするのだとおっしゃっています。私の目指すところもそこで、そのためには、色んな観点から意見交換し、目標づくりをしていく必要がある。

私はよく「3S」ということを言葉にします。計画を実行する上で大切なことは、やはり「参加」する、「行動」する。これが一番ですが、これにスピードというS、それからスマイル、優しさというS、そしてスペシャル、特別にというS、あなたのために、三次のためにというSです。「3S」ということを考えながら、総合計画にこれから携わっていきたいという思いです。

個々の懸案につきましては、また後ほど意見を述べさせて頂く機会があるかと思いますが、行政に対しても、そして観光協会という立場からも、ご意見を頂きたいし、また、情報の発信をしていきたいと思っています。以上です。

(伊藤会長)

素晴らしいご提案だったと思います。

(委員9)

視点が3つありますが、一番議論になるところで、うまくまとめられていると思います。

また、働く所が無かったらまちづくりはできないと思いますので、働く場所が一番だと思えます。企業誘致もありますし、農業、林業という、今あるものを活かすことで産業に結びついて、まちづくりをしていけば、もう少し住みやすいまちになるかなと思います。以上です。

(委員 10)

素晴らしいプランを立てておられるので、何も言うことはないのですが、委員の皆さんが、この内容をしっかり熟知されて、理解されているかというところではない。私も分からないところが多くあります。ましてやこれを、市民に出した時に、これを理解して参加し、そして行動、実践に移すかということになると、非常に難しいと思います。

ですから、市民がしなければならないこと、行政がしなければならないこと、これをしっかりと色分けをして、誰でも分かりやすいよう資料を作成して頂ければと思っております。以上です。

(伊藤会長)

役割分担のようなところも、もう少し変えた方がよいということではよろしいでしょうか。特にわかりにくいところはありませんか。

(委員 10)

ほとんど分かりにくいです。

(伊藤会長)

役割分担を明確にすると同時に、どうすればよろしいと思われますか。

(委員 10)

例えばですね、「ひとづくり」に、子育て、教育、生涯学習とありますね。この分野は行政で行いますよ、これは市民の皆さんが行って下さい、ということ。

それぞれの分野で役割分担してもらえれば、市民にも分かるのではないかと思います。私が言いたいことは、市民が主役ですから、市民に分かりやすい計画ということが必要なのではないかと思えます。

(伊藤会長)

わかりました、ありがとうございます。

(委員 11)

「市民のしあわせ」を最終目標にして、こういう風になりますという構成が分かりやすいと思います。

前回、課題の克服に重点が置かれている印象を持ったので、三次の良いところを守っていく、というところを整理しておいて、それを計画に反映させるということが重要なのではないかと、申し上げさせて頂きました。

総合計画のまとめ方として、抽象的な表現になるのはやむを得ないところもありますが、そこに至る過程として三次特有のものからスタートしているの、それを徐々に集約し、最終的にこういう方針です、という経過が見えないと理解しづらく気がしました。

今回、ベースとなる基本的視点、3つの視点を支える政策の中身として「三次はこういうところが良いですね」というのがちらほら見えている。これを活かすような形で、ひとづくり、あるいは環境づくりなど、前回よりはやや分かりやすくなったかなと思います。

一点、要望になりますが、三次の良いところで、今後様々な計画を立てる上で、これはきちんと守っていききたい、というところを確認する項目があってもよいかな、という感想を持ちました。

(伊藤会長)

今おっしゃった三次の特徴、個別に見ていきますと、アンケートの結果、まちづくり塾の結果、あるいは第1回審議会でのご指摘等、個別にはポツポツ出てくるのですけれど、今のご指摘である課題克服のために重要なテコとして利用するような視点としていること、これは非常に重要なご指摘だと思います。

(委員12)

「拠点性」という表現が、市民から見た時に難しいなという感じがしました。

それから、地域の防災対策、健康危機管理も含めた、地域の安心・安全の確保といったことも、言葉としてあってよいかなという感想を持ちました。北部に関しては、高齢者の自殺者が依然として多い。そういった健康危機管理というところも、書いていただきたい気がしました。

私は、中学生の時に校長先生から言われた言葉によって、生まれ育った地域に誇りをもち、育てて頂いたと今も思っています。自らの生まれ育った地域に誇りをもち、子ども達が三次に帰ってきたいと思えるような地域づくり、そのようなところで就労の拡充というようなところもあってよいかなという気がします。

(伊藤会長)

「拠点性」という表現でこうすればいいのではないかと、別の表現があるのではないかと、お気づきはありますか。

(委員12)

今すぐには浮かびません。分かりにくいかなというような感じです。

(委員13)

総合計画の基本構想と基本計画の役割分担について、基本構想は指針ですので、計画期間は10年でよいと思うのですが、基本計画は、社会情勢等の変化も激しく10年だと計画を立てにくい。例えば、第一期、第二期というように、5年スパンというのも一つの方法じゃないかと思えます。そして、基本計画、あるいは実行計画では、具体的な目標、出来れば数値目標を示す、いわゆるPDCAサイクルが必要なかなと感じました。

今回は基本構想ということなので、こういうことをしますよ、というよりは、こういう姿を目指します、というのをしっかり出していくべきかと思えます。ですから、基本的視点で「誇り」「共生」「拠点性」とありますが、それを受けて「市民のしあわせ」とは何なのかというのを具体的に、また「ひと」「しくみ」「くらし」「仕事」「環境」について、10年後にはこういう三次市になっているのだよという、目指す姿を基本構想の中でしっかり書く必要があるのかなという感じがします。

関連して、計画を実行する上で大切にしたいことに「参加」と「行動」がありますが、目指す姿を実現していくために「参加」と「行動」でやっていきますよ、というのが基本構想であって、あとは基本計画や実行計画の中で施策を立てていくと、少し流れが分かりやすくなるかなという感じがしました。

それから、政策の柱の「しくみづくり」で、「しくみ」というのは非常に大切な概念だと思うのですが、「ひと」「くらし」「仕事」「環境」が縦とするならば、「しくみ」というのは横串

ですので、2番目にあるのは、個人的な感じではちょっと悪くて。5番目に横串をさすような感じで「しくみ」がくる。「ひとづくり」にも関連しますし、「仕事」「環境」全てに関係する、横串にさしているような概念ではないかと思います。

(伊藤会長)

ありがとうございます。事務局で一番悩まれたのが、今ご指摘のあった事項でして、この原案では、キーワードがばらばらに出ている感じが否めないと思います。

相互関係をいかに上手く説明していくかという時に、今脇本委員のお話にありました、まずは将来像、5年後、10年後にこうなっていますという将来像を描く、それに対しての方法論的なものを示せばどうか、整理したらどうかということでしたので、これは是非また今から検討して頂きたいと思います。

(委員14)

これから自分達は何をやっていこう、という点からは、「参加」と「行動」という言葉があがっているのですが、こういうことをしなければいけないのだな、他人事ではないのだなという意味がでているかなと思います。

課題で「地域包括ケアシステム等」が超高齢社会の中に入っているのが気になります。地域包括ケアシステムは、まちづくりの一環として生まれてきたもので、まちづくりの基本的視点の全てを含めて「地域包括ケアシステム」ということにすると、ここにあるのは違和感があります。

それと、政策の柱の5つの輪が横一列に並んでいます。これはどれを取っても大事なもので、例えば「ひと」と「しくみ」がつながって、「くらし」がつながってという、柱がそれぞれつながる部分、重なる部分もあるかと思っています。これで何をを目指しているのかということが視覚的に表現されると、市民にも分かりやすくなっていくのではないかと。

「誇り」と「共生」と「拠点性」、本当に「参加」「行動」していくために、自分はこのまちのために何を一生懸命頑張ればいいのか、ということが、何か一つ、あればいいなと思いました。

(委員15)

三次市に限ったことではないと思うのですが、多くの地方自治体が懸念されているというのは、やはり人口減少の問題だろうと思います。

私は約20年前に東京からIターンしてきましたが、ちょうどバブルの頃でした。その時期、ハコモノ行政がいかに多かったか。結局その頃造った建物は、維持管理に追われるということが結構多いのではないかという危惧しております。これは建物だけではなくて、道路、橋もです。

今後、この計画で何をコンセプトにするかなと考えたとき、やはり魅力あるまちづくり、魅力がないと人は戻ってこない、来たいとも思わないのではないかと考えています。私の子どもは皆、田舎に行きたいという志向があり、地方の大学に行きました。今も帰ってくると、田舎は良いねと話します。その時に考えたのが、いかにふるさとを魅力あるものにしていけるか。「行ってみたいまち」、それから「住んでみたいまち」、それが定住につながるのではなからうかと。

この魅力あるまちづくりというのは色んなものが絡んでいるかと思っています。これはもちろん、職場もそうです。

私が今考えているのは、いわゆるコミュニティをどのように確立できるか。今回子ども達が帰ってきた時に、10年くらい経って「〇〇ちゃん帰ってきたね」と近所のおばさん達に声かけられる、そういうのは東京ではまず考えられませんから、田舎に住んで、そこで少年少女時代を過ごせば、やはり帰ってきたいと思うのではなからうかと。そこで受け入れられる土壌を我々がいかに提供してあげられるのか、そういうことを考えてみたいと思っています。

(伊藤会長)

ありがとうございます。これも先ほどの課題だけではなくて、その地域の特徴、良いところ、あるいは魅力を活かして、まずは将来像を示してほしい。そうすれば、具体的な方策等もついてくるということですので、貴重なご意見です。

(委員 16)

この総合計画は、誰のための計画なのかと考えました。

先ほど委員 10 の話にもあったように、市民と市行政の役割が、計画の中ですごく不明確な感じがします。具体的には、計画を実行する上で大切にしたいことで、「参加」と「行動」とありますが、これを読んでいて何か腑に落ちないなと思っていると、主語がたくさん出てくるということです。例えば最初の三行目では、「市民と市議会及び市が協働して」という言葉。その次の行では「私たち」に変わっている。次の「参加」のところでは「市民」という言葉を使って、その下の「行動」のところでは「私たち」という言葉を使っている。

「参加」や「行動」ということに関して言えば、これは結局市民を指すわけなのでしょうが、市民の同意を得る手続きというところも必要だろうし、またそれに向けて、今度は行政が一体どういうサポートをしてどんな役割を果たすのかということも非常に不明確な気がします。

そういう意味では、この主語のところをしっかりと整理して頂いて、誰の為の計画なのかということを考えてみると、分かりやすくなるのかなという気が致しました。

(伊藤会長)

貴重なご意見だったと思います。

(委員 17)

私は、小さい時から今まで、主役とは言いませんけれども、絶えず自分が何かに参加していたという気持ちがずっとありました。

そんなところから考えてみると、計画を実行するために大切にしたいもの、ということで、市民と審議会と市が協働してやるということなのですが、施策の項目が列挙してある中で、一体誰がこの計画を進めていくのだろうか、参画していくのだろうか。これは子どものレベルでは入り込めないスタイルになっている。つまり子育てで、子育てはないわけですよね。三次市に住んでいる私達が何かに参画したいと考えたとき、総合計画の中に、自分が入り込めるところが必要なのではないかということを思うわけです。

これは子どもにしても、働き手の方にしても、高齢の方にしてもそうです。この総合計画の中に自分が入り込めるところがあるか、これは期待がもてるぞという風なものに仕上がっていくというのが、私としては一番望みたいところです。皆さんの話を聞きながら、そんなことを思っておりました。

(伊藤会長)

ありがとうございます。先ほど、主語がよくわからないというご指摘があったのですが、もっと細かくブレイクダウンして、「参加」と「行動」を明確にしようという、これも貴重なご意見だったと思います。

(委員 18)

私は高校を出てから三次を離れて、35歳の時に三次に帰ってきたという経緯です。帰ってき

たのは、家の商売の継承ということが目的で、まちに魅力を感じてとかではないので、まちづくりというテーマとなった時に、なかなか自分の中に確固たるものはもってはいないのですが…。

まちづくりの基本的視点の中の「誇り」というものを見た時に思い出したのが、東京に住んでいた時、友達に三次を馬鹿にされたことがありました。三次に対して特に誇りを持っているという気持ちはなかったのですが、なぜか私はとても腹が立ちました。その時の気持ちは何だったのか、というのが整理できなかったのですが、自分がすごく大事にしたいもの、大事に感じていたものがあって、それをけなされたために腹が立ったのだらうなと思いました。

この度あがっている「誇り」という視点は、やはり大事なものだらうなと感じました。

(委員 19)

まちづくりの基本的視点というのは、言葉だけではイメージしにくいのですが、市民アンケートで優先度が高いもの、満足度が低い項目がしっかり実現できていけば、住んでいて幸せを感じる市になっていくのではないかと思います。

次の段階で、子どもから大人まで「参加」「行動」することを具体的に示していければ、市民みんなが興味を持って考えていけるのではないかと考えます。

(委員 20)

資料の範囲が広くて、どこから考えていいのか分かりにくいので、絞って考えていく方が私としては意見しやすいです。

今からの問題として人口減少がありますが、三次がいかに関魅力的であるかというのを子ども達が小さい頃から経験していくことが大事だと思います。そうするためには、学校でも地域と連携して教えていかなければいけないと思うし、大人も「参加すること」「行動すること」が大事だと思います。

私も地域の話し合いなどに参加しますが、参加者は決まってくるので、それ以外の人はどうやったら参加してくれるか、考えていました。

子ども達が魅力的に感じられるように、大人がしっかり魅力を感じられるようにするには、どうすればいいか、というのを分かりやすく具体的に説明してあげればいいのかと思います。

(伊藤会長)

ありがとうございます。今日は抽象的な議題でしたので、とっつきが悪かったらうと思いますが、いくつか重要なご意見がたくさんあったと思います。

その中でも課題のマイナス面だけでなく、プラス面も活かして課題克服の為に活用するという視点が必要であるというご意見、主語が不明確、役割分担を明確にしつつ、しかも子どもとか大人とかお年寄りとか、世代に応じた役割分担の視点も重要ではないかということ。更に最終的な目標は「市民のしあわせ」ということなのですから、施策の視点とか、基本的視点に対応して将来像を具体的に書くと、方策等も見えてくるのではないかと、というようなことは重要だったと思います。

まだもう少し時間がありますので、言い残されたこと、あるいはどなたかの委員さんのご発言に対して反対意見、あるいは質問などで結構なので、どなたかありますでしょうか。

(委員 3)

基本的視点の「誇り」「共生」という言葉が、何か分かりにくいような気がするのですが、出来ればこういうものは、「見えるまち」とか「つくるまち」とか「使えるまち」とか、何かいいのがあればなど、ちょっと思いました。

(伊藤会長)

お帰りの途中でも帰られてからでも結構ですが、思いついたことがあれば是非事務局に連絡か、あるいはメール等して頂けたらと思います。

あとで事務局から連絡があると思いますが、第3回の審議会を9月の終わりから10月の半ばで開催することにしたいと思います。次回は今日の議論を踏まえて、またこの後、追加のご意見等十分受け付ける期間があると思いますが、それを踏まえて、今日の骨子(案)を更に仕上げていくということになるかと思います。ということで、本日の議事をこれで終わらせてよろしいでしょうか。

(委員1)

資料をあらかじめ送って頂くことはできないのでしょうか。説明を丁寧にして頂いたのですが、今日来て見るだけでは何となくスルーしてしまって、ということがあるので、あらかじめ送って頂ければ予習できるかなと。

(事務局)

大変すみません。資料作成に手間がかかりまして、送らせて頂こうとは思っていたのですが間に合わなくて、お詫びを申し上げます。

今回は事前に送らせて頂き、見ていただけるようにしたいと思います。

(伊藤会長)

それでは、これで会議を終わりにして、事務局に戻したいと思います。

(事務局)

主語、言葉のことなど色々ご指摘頂き、貴重なご意見をありがとうございました。用語については、骨子(案)、説明資料を含めて見直す中で、より良いものを提示していきたいと思えます。例えば政策の柱では「しごと」「しくみ」とかではなくて、三次らしさ、三次の特徴が出た言葉で表現したいとも思っておりますし、将来都市像も考えようと思っております。

三次の総合計画はこういうものだよ、というものを考えたいと思っておりますので、その辺りもまた次回にかけて、ご意見等を頂ければと思っております。

(2) その他

(事務局)

それでは、熱心にご審議、あるいはご意見を頂きまして、大変ありがとうございました。

先ほど事務局が申しましたように、今回3つの基本的視点というところの概念を組み立てるのに手間取りまして、今日皆様から、分かりにくいということでご意見を頂いております。

今日のご意見を元に、次回はあらかじめ送らせて頂いて、その中で審議して頂きたいと思えますので、引き続きよろしくお願いを致しまして、本日の審議会の方を終えます。最後に、本日は、総合計画の庁内の検討委員会の委員長でございます津森副市長が、皆様のご審議を聞かせて頂いておりましたので、最後に一言ご挨拶をさせていただきます。

(津森副市長)

副市長の津森でございます。私も事務局の立場でございますので、今日は会長を始め、委員の

皆様方の審議，多くのご指摘を頂きましてありがとうございました。

この審議会におきましては，事務局の方で成案をほとんど作って，これでよいのでしょうかというような質問の仕方ではなくて，この審議会で審議をきっちりとして頂く中で積み上げていく，そういうプロセスを辿っていくのだらうと捉えています。そういう意味で，これから回数を重ねて頂くということになろうかと思いますが，是非引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。皆さんに審議して頂くなかで，しっかりとした総合計画がつくられると思ひますので，どうぞよろしくお願ひします。

今日は本当にどうもありがとうございます。引き続きよろしくお願ひいたします。

(事務局)

それでは，本日は遅くまでご審議を頂きまして，大変ありがとうございました。次回もよろしくお願ひ致しまして，本日の審議会は終了させて頂きます。大変ありがとうございました。